



2021年2月3日

SOMPOひまわり生命 健康応援リサーチ ～コロナが「がん検診」に及ぼした影響および定期検診の受診状況に関する調査～

SOMPOひまわり生命保険株式会社（社長：大場 康弘、以下「当社」）は、新型コロナウイルス感染症の流行により、早期発見が重要とされる「がん検診」にどのような影響があったのか、また一般的ながん検診受診の浸透度合いや人々の意識について、アンケート調査を実施しました。その調査結果について公表します。

1. 背景・目的

2月4日は「世界対がんデー」です。がんへの意識向上と予防、検出、治療への取組を促すために定められた、人々ががんについて考え、行動を起こす日です。厚生労働省では、がん検診の受診率を50%以上とすることを目標としています（例えば、女性では20歳から2年に1度の子宮頸がん検診、男女40歳以上では年に1回の肺がん・大腸がん検診が推奨されています）。

一方、新型コロナウイルス感染症の影響により、がん健診控えが社会問題となり、今後がんが進行した状態で見つかってしまう可能性が高まるのではないかと、とも言われています。

「健康応援企業」として、どのくらいの方々が今年度がんの定期健診を受診できていないのか、また定期健診を妨げている要因等についてお伺いしました。

2. 調査結果サマリー

①新型コロナウイルス感染症流行によるがん検診未受診者の状況

- 新型コロナウイルス流行の影響により、2020年に予定していたがん検診を受けなかった人は、がん検診受診経験者中10.2%であった。
- 2020年にがん検診を受診した人（がん検診受診経験者中42.9%）の内訳を見ると、がん検診の中止は不定期受診者で多めであり、がん検診定着のためには、定期健診を受診することが望まれる。

②がん検診の受診率

- がん検診の受診率を見ると、定期的に健診を受けているのは、全体の26.5%であった。男女別に見ると、男性では20～30代において約8割が受診経験がないのに加え、受診経験率が上がる40代以上においても、男性40代で55.0%、50代で46.0%でがん検診受診経験がなかった。女性では、女性20代で70.0%、30代で45.0%でがん検診受診経験がなかった。

③20代女性の定期受診状況とがんり患に対する不安感、また金銭的準備の状況

- 女性20代以降は、2年に1回の子宮頸がん検診が推奨されているが、本調査では女性20代におけるがん定期健診受診率は11.0%（子宮頸がんに限らず）にとどまった。また、当該世代では、万が一がんになり患した際の不安が他世代より多め・強めである傾向が見られたが、金銭的準備は十分でない様子も伺えた。

④がん早期発見の重要性

早期発見と5年相対生存率の関連性の報告を提示したところ、「早期発見は大切だと思った」との回答が全体で82.2%と、がん早期発見の重要性は広く理解された様子であった。

⑤がんリスク検査の認知度と利用意向率

- 「リスク検査」の認知率は尿で32.4%、だ液で28.1%に留まったものの、利用意向はそれぞれ60%以上と、高い意向がみられ、コロナの影響等、病院に行きづらい環境においての検査の方法として新たな技術も出てきている。

3. 調査結果詳細

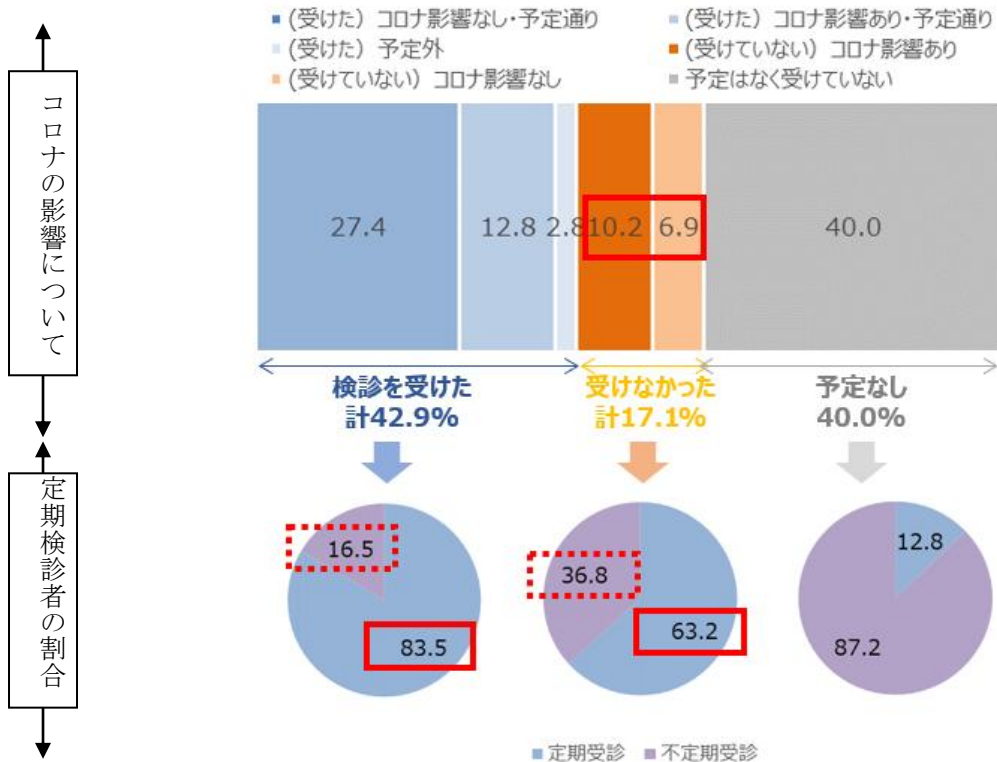
①新型コロナウイルス感染症流行によるがん検診未受診者の状況

- 新型コロナウイルス流行の影響により、2020年に予定していたがん検診を受けなかった人は、がん検診受診経験者中10.2%。それ以外の理由により受診しなかった6.9%を含めると17.1%の人が、がん検診を中止している。
- 2020年にがん検診を受診した人（がん検診受診経験者中42.9%）の内訳を見ると、「がん検診の定期受診者」が83.5%、「不定期受診者」が16.5%であったが、2020年にがん検診を中止した人（同17.1%）の内訳は「定期受診者」63.2%、「不定期受診者」が36.8%であり、中止は不定期受診者で多め。がん検診を定着させるためには、定期健診の推奨が必要といえる。
- 男女別に見ると、「影響があつて受けなかった」と回答した人の割合が女性で3.6ポイント高く、女性でやや影響が強めであった様子が伺える。

Q. 2020年は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、がん検診の受診控えが報道されています。あなたは、新型コロナウイルス感染症の影響を受けましたか。（ひとつだけ）

※定期受診…がん検診を「定期的を受けている」「ほぼ定期的を受けている」と回答した人

不定期受診…がん検診を「定期的ではないが、数年に1度は受けている」「1~2回受けたことがある」と回答した人



(%)

	n	検診を受けた %	検診を受け なかった(コ ロナ影響あ り) %	検診を受け なかった(コ ロナ影響な し) %	予定はなく 受けていな い %
計	508	42.9	10.2	6.9	40.0
男性計	210	46.7	8.1	6.2	39.0
女性計	298	40.3	11.7	7.4	40.6

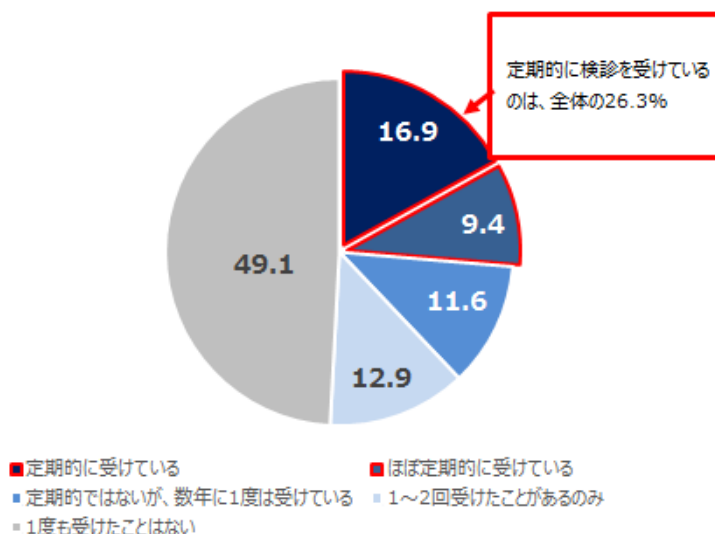
コロナの影響でがん検診
を受けなかった人は
10.2%

女性の方が3.6ポイント
高く、コロナの影響を受け
て受診控えが発生か

②がん検診の受診率

本調査において、過去にがん検診を受けたことがあると回答した人は50.9%、一方全く受けたことがない人が49.1%という結果となった。定期的（おおよそ1~2年に1回程度）に受診している人は全体の約4人に1人（26.3%）であった。

Q. あなたは、がん健診を定期的（おおよそ1年に1回、または2年に1回）に受けていますか。（ひとつだけ）



定期的ながん検診が推奨されている女性20歳以上、また男女40歳以上で見ると、定期的に受けているのは女性20代で11.0%、30代で22.0%にとどまり、「(がん検診を)1度も受けたことはない」との回答は20代で70.0%、30代で45.0%との回答となった。男女40歳以上で見ると、男性40代で55.0%、50代で46.0%が「(がん検診を)1度も受けたことがない」と回答している。

	n	定期的に受けている %	ほぼ定期的に受けている %	定期的ではないが、数年に1度は受けている %	1~2回受けたことがあるのみ %	1度も受けたことはない %
計	999	16.9	9.4	11.6	12.9	49.1
男性 20代	100	4.0	2.0	4.0	4.0	86.0
男性 30代	100	2.0	3.0	7.0	9.0	79.0
男性 40代	100	16.0	11.0	8.0	10.0	55.0
男性 50代	100	28.0	4.0	13.0	9.0	46.0
男性 60代	100	30.0	15.0	17.0	14.0	24.0
女性 20代	100	6.0	5.0	5.0	14.0	70.0
女性 30代	100	12.0	10.0	10.0	23.0	45.0
女性 40代	100	22.0	12.0	17.0	19.0	30.0
女性 50代	99	19.2	18.2	16.2	15.2	31.3
女性 60代	100	30.0	14.0	19.0	12.0	25.0

定期的に受けているのは、全体の26.3%、4人に1人程度。

働き盛りの40-50代男性で55-65%の人ががん定期検診を受けていない

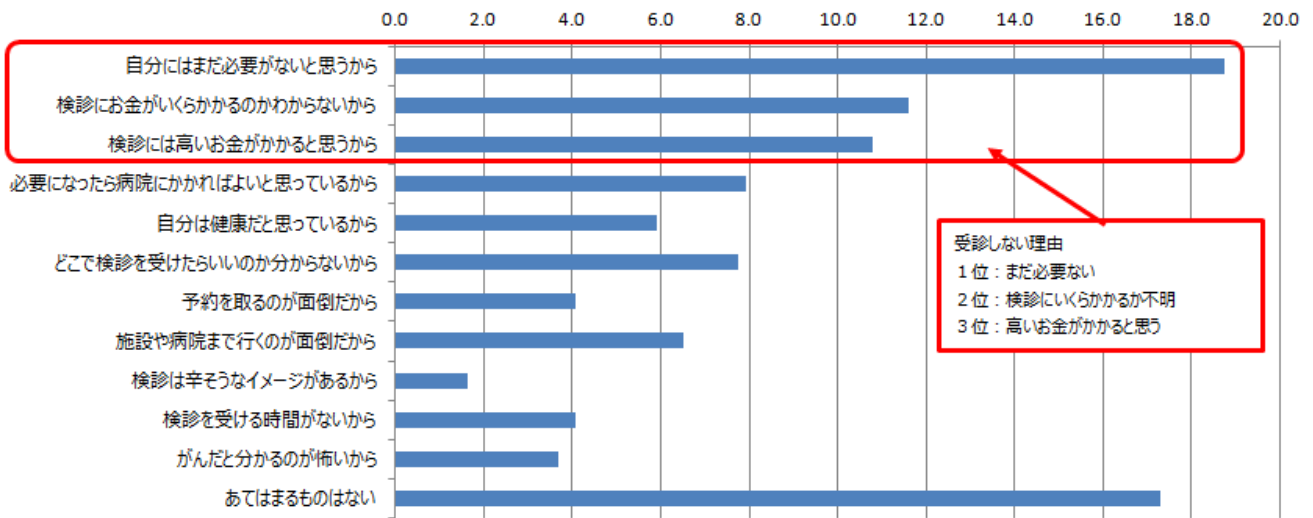
20-30代女性の68-84%は定期検診を受診していない。

がん検診を受診したことがない理由

がん検診を受診したことがない人に、受診しない理由を尋ねたところ、「検診にお金がいくらかかるかわからないから (39.5%)」「検診には高いお金がかかると思うから (31.6%)」という金銭的要因が上位2位となり、「自分にはまだ必要がないと思うから (30.1%)」と続いた。

- 男女別に見ると、男性では「自分は健康だと思っているから」が全世代で女性より高め。一方女性では、「必要になったら病院にかかれば良いと思っているから」が全世代で男性より高め。男性では、自分自身の健康に自信があり、女性では病気の予防意識の低さが垣間見える結果となった。
- 前項目で受診率の低さが目立った女性20代・30代、男性40代・50代を見ると、受診していない理由上位3位が共通しており、「検診にお金がいくらかかるかわからないから」「検診には高いお金がかかると思うから」という金銭的理由と、「どこで検診を受けたいのか分からないから」があげられ、検診にまつわる基礎的な情報を獲得できていない様子を伺わせた。

Q. あなたががん検診を受診したことがないのは、なぜですか。



がん検診をしたことがない理由		n	検診にお金がいくらかかるかわからないから	検診には高いお金がかかると思うから	自分にはまだ必要がないと思うから	どこで検診を受けたいのか分からないから	倒設や病院まで行くのが面倒だから	からは健康だと思っているから	必要になったら病院にかかればよいと思っ	予約を取るのが面倒だから	ら検診を受ける時間がないから	らがんだと分かるのが怖いから	あるから辛そうないイメージが	あてはまるものはない
全体		491	39.5	31.6	30.1	29.5	23.2	21.8	21.6	21.6	16.9	15.7	10.6	17.3
性別	男性	290	40.3	30.7	33.4	26.9	21.7	25.5	20.0	20.0	15.9	16.2	9.0	18.6
	女性	201	38.3	32.8	25.4	33.3	25.4	16.4	23.9	23.9	18.4	14.9	12.9	15.4
	男女差	-	2.0pt	2.1pt	8.1pt	6.4pt	3.6pt	9.1pt	3.9pt	3.9pt	2.5pt	1.3pt	4.0pt	3.2pt
性年代	男性 20代	86	37.2	29.1	51.2	27.9	16.3	33.7	19.8	12.8	14.0	15.1	10.5	17.4
	男性 30代	79	36.7	26.6	34.2	22.8	20.3	27.8	19.0	20.3	11.4	13.9	8.9	25.3
	男性 40代	55	50.9	38.2	29.1	32.7	23.6	18.2	14.5	25.5	30.9	16.4	10.9	14.5
	男性 50代	46	43.5	32.6	19.6	30.4	28.3	19.6	23.9	23.9	15.2	21.7	8.7	15.2
	男性 60代	24	33.3	29.2	4.2	16.7	29.2	16.7	29.2	25.0	4.2	16.7	0.0	16.7
	女性 20代	70	47.1	35.7	44.3	47.1	27.1	24.3	20.0	27.1	15.7	10.0	11.4	10.0
	女性 30代	45	37.8	51.1	24.4	40.0	24.4	17.8	22.2	31.1	28.9	20.0	11.1	13.3
	女性 40代	30	40.0	20.0	16.7	26.7	26.7	10.0	20.0	26.7	16.7	20.0	20.0	20.0
	女性 50代	31	32.3	22.6	9.7	9.7	12.9	12.9	32.3	6.5	16.1	12.9	9.7	29.0
	女性 60代	25	20.0	20.0	4.0	20.0	36.0	4.0	32.0	20.0	12.0	16.0	16.0	12.0

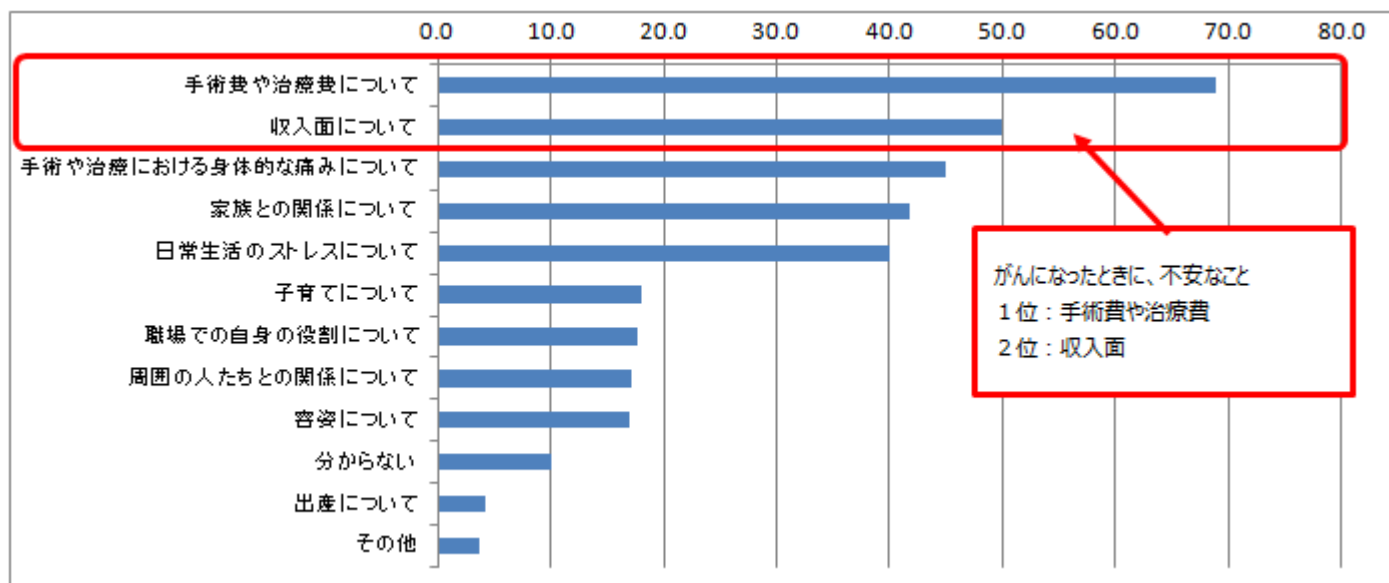
男性では「自分は健康だと思っているから」が全世代で女性より高め。女性では、「必要になったら病院にかかれば良いと思っているから」が全世代で男性より高め。

③20代女性の定期受診状況とがんり患に対する不安感、また金銭的準備の状況

「万が一、がんになった場合にどのようなことを不安に感じるか」と尋ねたところ、「手術費や治療費について（69.0%）」「収入面について（49.9%）」と金銭的な不安が上位2位を占めた。

また、不安指数（不安と回答された数値を総計。高いほど不安の範囲が広い/強い）を算出し、性年代別に比較してみると、最も高かったのは20代女性（410.0）、次いで30代女性（405.0）となった。内容としては、「治療費」「収入」などの金銭面から、がん罹患した場合の「子育て」「出産」などライフステージにまつわる不安、また「容姿（の変化）」について等、多岐にわたる悩みを多くの方が感じている様子が伺えた。

Q. 万一、がんになった場合、どのようなことを不安に感じますか。（いくつでも）



Q. 万一、がんになった場合、どのようなことを不安に感じますか。（不安指数）

	n	手術費や治療費について		収入面について	家族との関係について	日常生活のストレスについて	身体的な痛みにおける手術や治療における身	職場での自身の役割について	周囲の人たちとの関係について	子育てについて	容姿について	出産について	その他	分からない	不安指数（左記合計）
		%	%												
全体	999	69.0	49.9	41.7	39.9	45.0	17.6	17.1	18.0	17.0	4.3	3.6	10.0	323.3	
性年代	男性 20代	100	64.0	50.0	47.0	38.0	29.0	28.0	25.0	14.0	14.0	0.0	1.0	17.0	310.0
	男性 30代	100	66.0	59.0	48.0	32.0	35.0	22.0	15.0	22.0	21.0	0.0	4.0	14.0	324.0
	男性 40代	100	70.0	68.0	47.0	27.0	30.0	24.0	17.0	18.0	14.0	0.0	1.0	15.0	316.0
	男性 50代	100	70.0	61.0	33.0	27.0	40.0	19.0	14.0	7.0	3.0	0.0	3.0	9.0	277.0
	男性 60代	100	64.0	31.0	36.0	47.0	38.0	11.0	12.0	1.0	6.0	0.0	4.0	10.0	250.0
	女性 20代	100	79.0	52.0	45.0	40.0	55.0	15.0	29.0	32.0	31.0	28.0	4.0	14.0	410.0
	女性 30代	100	78.0	65.0	46.0	40.0	51.0	17.0	15.0	50.0	25.0	15.0	3.0	4.0	405.0
	女性 40代	100	76.0	55.0	44.0	51.0	50.0	20.0	13.0	31.0	23.0	0.0	4.0	3.0	367.0
	女性 50代	99	60.6	42.4	38.4	43.4	56.6	14.1	15.2	4.0	17.2	0.0	8.1	7.1	300.0
	女性 60代	100	62.0	16.0	33.0	54.0	66.0	6.0	16.0	1.0	16.0	0.0	4.0	7.0	274.0

特に、20-30代女性では、不安指数が高く、金銭的な不安に加え、「子育て」「容姿」「出産」といった若い女性ならではの不安を抱える。

がんになり患した場合に備えた金銭的準備状況

がん罹患した場合に備えた金銭的準備の状況について尋ねると、「がんに対応した保険や共済に加入している (44.8%)」との回答が最も多かった一方で、「特に準備はしていない (44.1%)」との回答もほぼ同数でみられた。性年代別には、男性 20 代・30 代、女性 20 代で「準備はしていない」との回答が高めで、半数以上は準備をしていない結果となった。

これらの点から、特に女性 20 代において、不安には感じているが、万が一がん罹患した場合の金銭的準備や利用可能な制度の理解が十分とは言えない様子が伺えた。

なお、がん罹患した場合の自己負担想定額 (健康保険内での負担額) として最も多かった回答は、「(70 万円) ~100 万円 (22.8%)」であった。

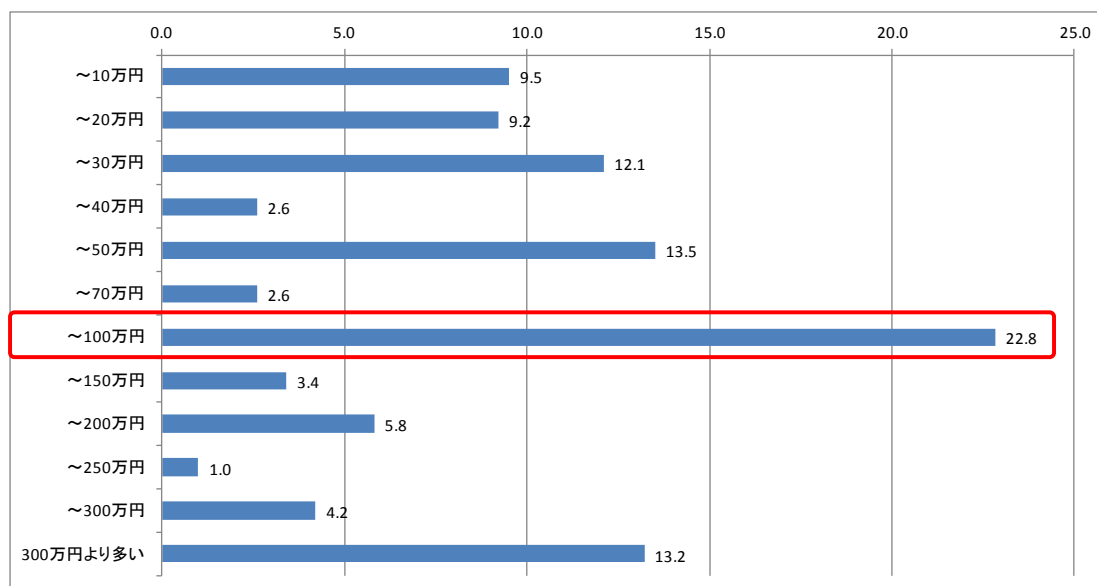
Q. あなたは、がんにかかったときの金銭的準備をしていますか。(いくつでも)

金銭的準備としては「保険や共済」が最も多いが、「準備していない」も同程度存在。

		n	貯金をしている %	がんに対応した民間保険 や共済に加入してい る %	その他 %	特に準備はしていない %
全体		999	15.8	44.8	1.1	44.1
性年代	男性 20代	100	15.0	28.0	1.0	62.0
	男性 30代	100	16.0	33.0	2.0	53.0
	男性 40代	100	14.0	56.0	1.0	34.0
	男性 50代	100	12.0	58.0	0.0	35.0
	男性 60代	100	21.0	56.0	2.0	32.0
	女性 20代	100	15.0	27.0	0.0	64.0
	女性 30代	100	14.0	47.0	0.0	44.0
	女性 40代	100	14.0	46.0	1.0	46.0
	女性 50代	99	17.2	50.5	2.0	35.4
	女性 60代	100	20.0	47.0	2.0	36.0

20、30代男性および20代女性において、金銭的な準備は始められていない。

Q. あなたは、がんにかかったときの平均的な金銭的負担はいくらくらいだと思いますか。健康保険を差し引いた自己負担額でお答えください。※1週間程度の入院、手術のみ (ひとつだけ)



④がん早期発見の重要性の認識

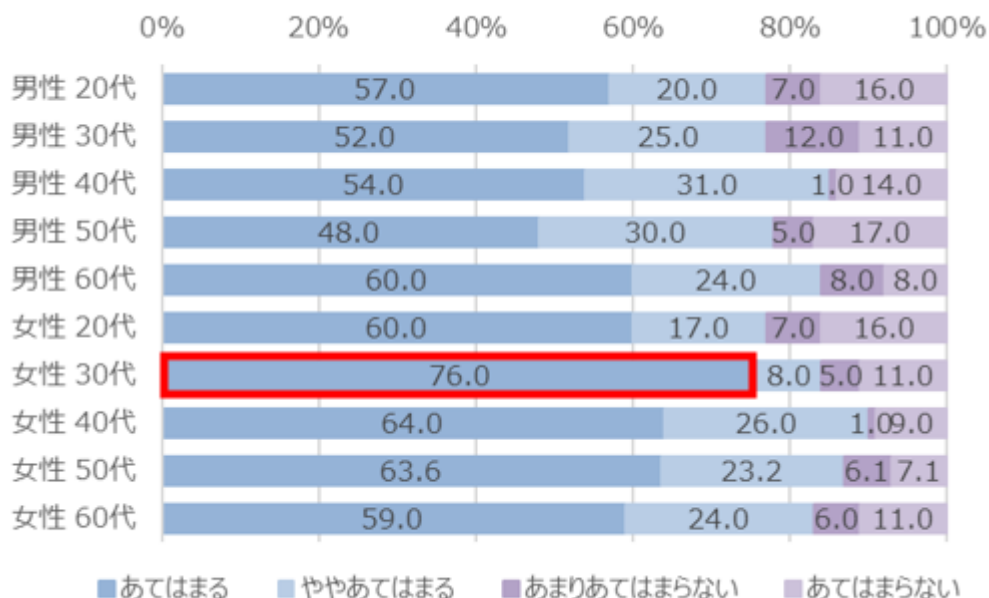
がんの早期発見の重要性について、胃がんの発見・治療が開始されたステージと5年相対生存率の関連性の報告を提示したところ、「早期発見は大切だと思った」との回答が全体で82.2%と、早期発見の重要性は一般的に認識されている様子が伺えた。

性年代別に見ると、全体的に高い中でも、女性30代でトップボックス（「あてはまる」）が76.0%と特に高い結果となった。

Q. がんの早期発見についてお伺いします。日本人の年間発症数が最も多いがんのひとつである胃がんの場合、がんが発見・治療が開始されたステージによって、以下のような5年相対生存率の違いがあると報告されています。これについて、あなたにとってあてはまるものを教えてください。【早期発見は大切だと思った】
 <胃がん 発見・治療開始ステージ別5年生存率>※国立がん研究センター（2009～2011年）ステージI 97.2%
 ステージII 62.8%ステージIII 49.0%ステージIV 7.1%



性年代別に見ると、全体的に高い中でも、女性30代でトップボックス（「あてはまる」）が76.0%と特に高い結果となった。ライフステージの変化が影響しているとも想定される。



⑤がんリスク検査の認知率と利用意向率

がんの早期発見における役割が期待されているがんの「リスク検査」の認知率、及び利用意向を尋ねたところ、「リスク検査」の認知率は尿で32.4%、だ液で28.1%に留まったものの、利用意向はそれぞれ60%以上と、高い意向がみられた。認知率が高まることで、手軽に受けられる検査として、がんの早期発見に寄与することが期待される。

Q. 最先端技術を活用したがんのリスク検査（一次スクリーニング検査）のうち、あなたが知っているものを教えてください。※「がんのリスク検査（一次スクリーニング検査）」は、がんであるリスクを評価する検査で、がんであるか否かを判断・診断するものではありません。【尿による検査】【だ液による検査】（それぞれひとつだけ）

	認知	利用意向	差分
尿	32.40%	70.00%	(+)37.6Pt
だ液	28.10%	63.90%	(+)35.8Pt

4. 調査概要

調査対象：全国の20代～60代の男女1,000名（各性、年代100名ずつ）

調査手法：インターネット調査

調査期間：2021年1月12日～1月14日

■本調査結果をご利用の場合は、「SOMPOひまわり生命調べ」のクレジットを併記ください。

以上